

見舞金や衣類を贈る

善意銀行 水俣病患者を激励

熊本善意銀行（熊日別館内）は十三日、長年闘病生活を続けている水俣病患者に、見舞い金と衣類を贈り感謝された。

さきに熊日で公書のお返しを訴える「水俣病は叫ぶ」を連載したところ関係各方面に大きな反響を呼び、水俣病患者の苦しみがあらためて認識された。そこで善意では預託されている「みんなの善意」を水俣病患者に届けることになったもの。

同日午前十一時から水俣市役所市長室で善意側から村上運営委員長（熊日相談役）田島事務局長、地元側から橋本市長、渡辺助役、中津水俣病患者家庭互助会長、山本同副会長が出席して伝達式が行

なわれた。現在水俣病患者は六十九人で、一人当たり三千元の見舞い金（総額二十七万七千円）と衣類百点が贈られた。村上委員長が「みんなの善意で一日も早く元気になってください」と激励、中津会長は「長い闘病生活で希望を失

いかけた患者たちもさぞかし喜んでくれるでしょう。患者や各家庭を代表して、心から感謝します」とお礼のことは述べた。互助会では十四日中にもそれぞれ患者宅を訪問して、善意を届けることにしている。